研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-132	12-014	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学

題名（原題／訳）

The effects of low to moderate alcohol consumption and binge drinking in early pregnancy on selective and sustained attention in 5-year-old children.

妊娠初期における軽度から中程度のアルコール消費および過度な摂取が、5 歳児の選択的・持続的な注意力に及ぼす影響

執筆者

Underbjerg M, Kesmodel US, Landrø NI, Bakketeig L, Grove J, Wimberley T, Kilburn TR, Sværke C, Thorsen P, Mortensen EL.

掲載誌

BJOG. 2012 Sep;119(10):1211-21.

キーワード

デンマーク、小児、選択的・持続的注意力、出生コホート研究

要　旨

目的：

5 歳における小児の注意力に対する、妊娠初期の母親の少量もしくは中程度のアルコール摂取や過度な摂取の影響を検討する。

研究デザイン：

追跡研究

設定：

デンマーク 4 都市において 2003-2008 年に神経心理学的テストが実施された。研究対象集団は Denmark National Birth Cohort から抽出された 1628 人の女性と子供である。方法として、対象者に対しては妊娠初期の期間、母親のアルコール飲酒パターンのサンプルが集められた。子供は 5 歳のとき、Everyday Attention for Children at Five (TEACh-5)という最近開発されたテストを受けた。親の教育、母親の IQ は、出産前の母親の喫煙、試験時の子どもの年齢、子どもの性別、テスト者が重要な交絡因子とされた。またフルモデルでは母親の過度な飲酒もしくは低中容量のアルコール消費量、年齢、体格指数（BMI）、兄弟の数、家族の家庭環境、出生後の親の喫煙、子供の健康状態、聴覚・視覚障害の指標などが含まれていた。

主なアウトカム指標：TEACh-5 注意力スコア

結果：

週 8 ドリンクまで飲んでいた母親の子供におけるテストの成績を飲酒を止めた母親の子供と比較すると有意な影響は見られなかったが、週 9 ドリンク以上消費する母親では、注意力スコア（OR ：3.50、95%CI ：1.15 から 10.68）に有意な関連が見られた。過度な飲酒と注意力テストスコアの間に一貫した、または有意な関連は見られなかった。

結論：

調査結果により、母親が週 9 ドリンク以上の消費することの子供の注意力機能の影響が示唆された。しかしながら、母親の低用量消費は影響がなく、過度の飲酒についても一貫した影響は見られなかった。